

き ず な

す けん き みどり さと おお くさ の
住 み よ い 元 気 な 緑 の 郷 大 草 野

** 嬉野温泉駅ボランティア清掃 2回目** 7月20日(日) 小学生も参加しました、元気に頑張りましたよ!!

今日は、参議院選挙の投票日と重なってしまいましたが、私達は4月から嬉野温泉駅の清掃日に決めていました。下の集合写真を見てください、40人を超えています。(写っていない人も数人います。)



夏休み最初の日曜日ということで、学校に呼び掛けて、子ども達にも参加してもらいました。子ども達だけでも15人近くいました。大人は、ビブスを着た人が26人、XLのビブスが入らなかった人(?)が1人、未着用が2人。

駅のホームは、外とほぼ同じなのでやっぱり暑かったです。バケツの水交換係の私は、歩数計の数を稼ぎたいのをあき

らめて、暑さで消耗しないようにエレベーターを使いました。子ども達の参加もあり、また大人の数も5月のときより多かったので、清掃は順調に進み前回より少しだけ早く終わりました。

今回の駅の清掃を、子ども達はどうか感じてくれたのでしょうか? 「もういいや!」ではなく、「またやりたい!」であってくれたらいいなと思います。子ども達は、社会との関わりを成長過程の中で少しずつ体験を通して学んでいくと思います。大草野コミュニティで行っているこのボランティア清掃の意味や思いを子ども達へ分かりやすく伝える時間が持てたらよかったなあ、と後から思いました。(先生方、伝達をよろしくお願いします。)

大草野少年野球チームもこのボランティア清掃に参加したいと言ってくれているそうなので、その気持ちを大事にして、ぜひ機会を設けたいと思います。

次回予定の9月28日(日)は、開業3周年の記念イベントがあって、駅のホームには入れないそうなので、1階部分や外回り、窓拭きなどの掃除を行いたいと考えています。当番部会は、環境整備部会と地域づくり部会の皆さんです。よろしくお願いします!



心肺蘇生法講習会 に参加しました！ (7月17日：木)

文化・スポーツ振興課から、「心肺蘇生法講習会」が開催されとの通知がありましたので、役員会メンバー8人で参加してきました。Uスポの広い会場に、受講者が90人ほど、主催者側まで含めると120人位がいました。この講習会、合併前の社会体育Gに在籍していた時に担当していた事業です。いまだに継続してもらって嬉しく思います。消防署の救急救命士が講師になり、女性消防隊員がサポートをしていました。



「呼吸停止」や「心停止」のときの対処法、胸骨圧迫(心臓マッサージ)の正しい方法を教えていただきました。

近年のように暑い日が続くと、熱中症で倒れたりした人に遭遇するかもしれません。もし、そんな場面に遭遇したら、恐れず積極的に指導を受けた方法を実践して欲しいと思います。倒れた人を目の前にすると気持ちが動転すると思いますので、まず自分自身が深呼吸をして気持ちを落ち着かせ、手順をしっかり思い出しながらやりましょう。「もしも！」に備えて、機会があったら皆さんも受講をお願いします。

防災広場 (3回目) の除草作業 (7月26日：土)

連日、体温並みの気温で、熱中症警戒アラートが出ています。雑草の方が熱中症になってくれたらいいのに、と思ったりします。今回も、8人が集まり、ホテル人工池からはじめて、防災広場、そして学校の芋畑



へと転戦しました。3時間ちょっとの時間でしたが、私は、午後から何度も水を飲みました、喉が乾くのです。

今年の暑さも異常です、外の作業には皆さんも十分気を付けてください。

ご安全に！！



益世会による塩田川右岸の草木伐採作業(8月24日：日)のお知らせです！

6時15分から、式南橋から千石堰(南下)までの区間の除草作業が行われます。

皆さん、今年も暑い日々が続いています。作業に出ただけの方、十分に体調を整えてから参加しましょう。熱中症対策も、当日だけでなく普段から水分補給に心掛けてください！

自身で一番わかりやすいのは尿の色です。水分が少なくなったり疲れたりすると色が濃くなってきます。水分摂取で尿をできるだけ透明な状態に保ち、身体を健康で元気な状態にすることを「ウォーターローディング」と言います。「尿を透明に！」私のような素人でも一番簡単な体調管理の方法です。

〔編集後記〕
「冗談みたいなこと！」

7月22日の佐賀新聞の(桑)氏が書いた有明抄は、私の日頃の思いを的確に表現してもらったようでとてもスッキリした気分になりました。冒頭と末尾に『世の中は冗談みたいなことがしばしば現実になる。』と言うセンテンスを効果的に配して、トランプ氏と石破氏の最近の行動を痛烈に皮肉っています。

思わず「えっ!!」と声を出したのは、石破氏の統投会見の言葉の中に、「南海トラフなどの災害にも備えなければならぬ」と言うのを聞いたときでした。「統投理由の中にそのことも入るの?」と、思わず突っ込みを入れました。それは、あなたがいなくても対応できるようにするべきことでは? それよりも、野党が「あなたとはこれ以上話ができない!」と言っていることをより重く受け止めるべきじゃないの?と思うのですが。

自民党支持の右寄りの人が大勢新しい党に流れたことも心配ではあるが、現状に合わないような、教科書に載っている理屈ばかりを言っているようなトップでは時代に取残されてしまう。

政権や党勢の維持を言う前に、国体や国民の生活維持が先にあるべきでしょう。冗談じゃない、と言いたい。